

こんにちは! 社協です!!

ふれあいネットワーク

2015
10月

No.124

特集 P2・3
日本で数少ない復元納棺師 笹原留似子さん
人と人との
つながりの大切さ語る

ひ孫と
いっしょ
シリーズ123

千種町 室

田口 スミエさん(89歳)

星月ちゃん(1歳)

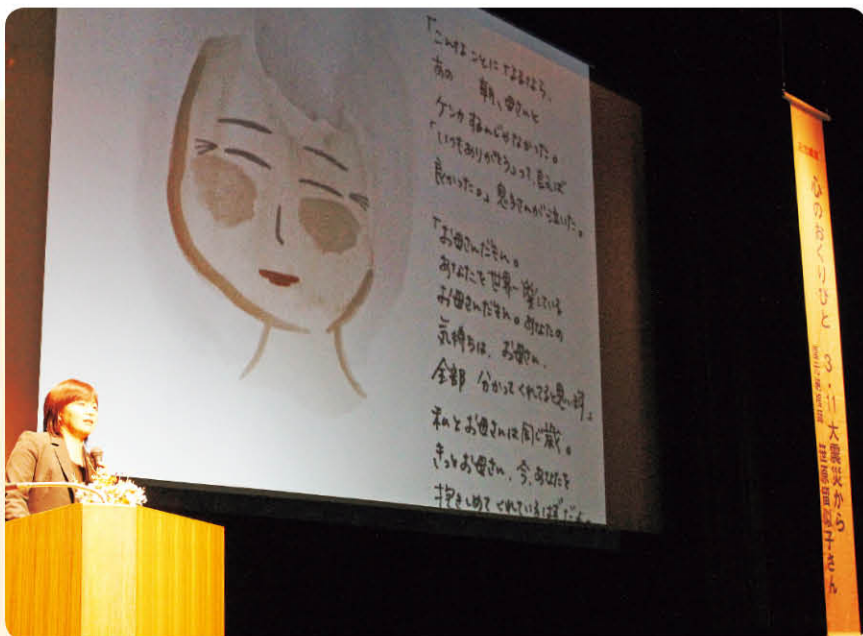
海星くん(4ヶ月)

田口 智也さん・広奈さん

■長女・長男

日本で数少ない復元納棺師 **笹原留似子さん**

人と人とのつながりの大切さ語る



自ら書いた絵を見せながら講演する笹原さん(H27.9.6)

参加者の多くが

生きていく力もらった

九月六日の日曜日。山崎文化会館で本会発足十周年記念式典と講演会を開催しました。講演会では、岩手県北上市から復元納棺師の笹原留似子さんをお招きし感動的なお話を聞きました。今月号では、その笹原さんの講演の一端を紹介し、これからの地域づくりや人と人とのつながりづくり。そして無縁社会について考えます。

社協10周年
記念講演会

故人の尊厳を守る

損傷の著しい遺体の尊厳をその人の笑いジワひとつまで修復する。笹原さんの活動は、「**その人の雰囲気を変えさせること**」です。

東日本大震災のあと、復元してきた遺体は何百体とも。体液が流れ、脂肪は重力で下へ落ち、カビや臭いがでる、乾燥して目や口が開く…それは本人のせいじゃない。亡くなった方の尊厳を守りたいと。

お母さんだ！

講演会で紹介された「NHKスペシャル」の映像。小学三年生の長女を筆頭に4人の小さな子どもたちを残して津波にさらわれて逝ったお母さん。1か月

後に変わり果てた姿で発見されました。それは、子どもに見せることをためらうほど顔の損傷が激しく、対面させていいものか悩んでいたところに、笹原さんの存在を知り、ご主人が復元を依頼。

笹原さんは、お母さんの思い出をたくさん聞いてから、顔のマッサージをして輪郭を整え、皮膚や唇の色、笑いジワまでを3時間かけて復元し、生前と同じやさしい微笑みのお母さんに子どもたちが対面することができました。

今まで死を認めたくなかったから話さなかったし、泣かなかった子どもたちが、「お母さんだ!!」と叫び、初めて泣くことができた、死を受け入れられた瞬間だったと話すご主人。

最期の笑顔

この番組のタイトルについて笹原さんは、「子どもさんがお母さんの顔を描いて『これがお母さんの最期の笑顔だよ』と話してくれたこの「最後の笑顔」という言葉を迷わず付けました」と語ります。

後悔が思い出に変わる

笹原さんは講演の中で、死んだ家族を前にすれば誰も同じことを言います。それは『もっとありがとうと言えよかった』ということなんです。悲しみよりも後悔が先にでてくるのです。

「悲しみはゼロにならなくてもいい、亡くなった人が自分に何を残してくれたのか考えてみ



笹原さんの講演会後のサイン会に並ぶ参加者

てほしい。それが答えとなつて、あなたの後悔は、いつか思い出に変わるのです。明日のことはわからない。ですから今日を精いっぱい生きてほしい」と力説。

生きていく力に

この講演会に参加された女性で、数年前のご主人の自殺を受け入れられず、苦しんでおられる方がいました。「心の整理が

出来ず、子育てにも悩んでいましたが、

笹原さんのお話を聞いて、やっと主人との別れが出来ました。

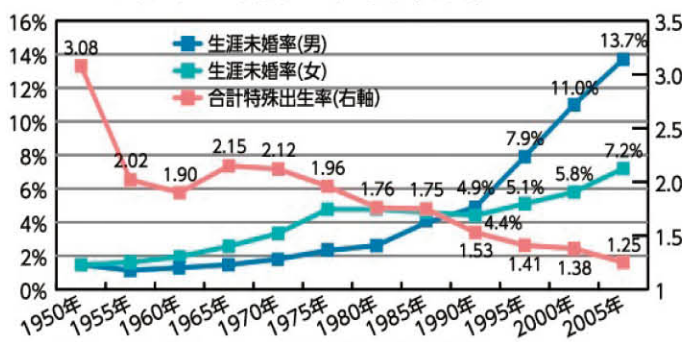
今日は、生きていく力をもらいました。

お話を聴いて本当によかったです」という感想をお寄せいただきました。

笹原さんの講演は、人間の生き方に力を与え、つながりの大切さを語るとても有意義なお話でした。

多くのみなさんが感動の涙を流されたのが印象的でした。

生涯未婚率と合計特殊出生率の推移(兵庫県)



※50歳時点で一度も結婚したことのない人の割合を「生涯未婚率」とした。
(出典) 総務省「国勢調査」、厚生労働省「人口動態統計月報年計の概況」

いかなる人も排除しない

地域づくりを

無縁社会キャンペーン」は、年間三万二千人の無縁死という「衝撃」から始まったものです。

この無縁社会は、一人暮らし世帯の増加や生涯未婚率の上昇等がもたらす家族形態の変化、非正規雇用の増加をはじめとする雇用形態の変化、価値観・ライフスタイルの変化などから、家族や地域、会社などで急速につながりが失われていることから起きています。

笹原さんの話にあつたように、無縁死や孤立死をなくすために私たちがすべきことは、人と人とのつながりづくりであり、いかなる人も排除しない地域づくりです。

本会の使命である「地域福祉の推進」は、福祉活動を地域づくりに広げていく活動でもあります。

人口減少が進む中、穴薬に合った地域福祉を創りあげていきましょう。(本部 山本正幸)

やさしさ

『映画会』で福祉について考える!

千本屋福祉連絡会

9月27日(日)、千本屋福祉連絡会では、自治会で福祉についてみんなで考えるきっかけを作りたいと公民館で『福祉映画会』を開催し、36人が集まりました。

今回の映画は、特別支援学校の先生が主役のドキュメンタリー映画で、子どもたちとの心の交流を通して誰もが役割を持って生まれ、その命の大切さを訴えるものでした。

参加者からは、「生きるってそれだけですごくいいことなんや」「自分にできることをもつとがんばらなあかん」など、映画について率直な意見が寄せられました。

「何か一つでも感じてもらえたなら良かった。今後もこうした機会を作っていきたい」と、語る自治会長で福祉連絡会代表の橋本俊明さん。



今回の福祉映画会は、こうした映画を配給するNPO法人から借りて上映されました(千本屋公民館)

このように千本屋では、映画会が福祉や人権問題を考える機会になっています。

これらの取り組みは、地域づくりそのものであり、「地域の福祉力」向上につながります。このような取り組みが市内で広がることを願っています。

(山崎支部 森井裕矢)

いのちのみや

9.13を忘れない!

下三方小学校山津波集会

9月11日(金)、下三方小学校で「9・13忘れたらあかんデー」山津波集会」が開催されました。

これは昭和51年9月13日に下三方を襲った山津波を忘れず語り継いでいこうと、毎年同小学校が開催しているものです。

今年も児童たちが山津波を知る地域の方々に話を伺い、当時の様子や状況、また防災について研究し発表しました。

6年生は、「6年間山津波について学習し思ったこと」として「自助」「共助」「公助」の重要性をまとめ、「これまでの学びを初めての一年生に伝えたい」と発表しました。

あの山津波災害から39年。当時のことを知る人もだんだん少なくなってきました。来年度から下三方、三方、繁盛の3つの小学校



学年ごとに児童たちが発表(下三方小学校体育館)

が合併し、新しく一宮北小学校がスタートします。「一宮北小になっても9・13を語りついでいきたい」と話した山本歩夢君の言葉に会場から大きな拍手がおこりました。

これからも山津波の教訓を風化させることのないように、地域と学校の連携した取り組みが続いていくことを願っています。

(一宮支部 田中祥仁)

や・い・は・ち トピックス

は
が

平日に集まれたら安心

鹿伏ふれあい喫茶

9月29日（火）、
鹿伏公民館でふれあ
い喫茶が行われまし
た。

波賀町北部に位置
する鹿伏は、30世帯
の集落で、雪の降る
時期を除いて毎月1
回、平日に喫茶を開
催しています。

参加への声かけ
から準備な
ど、運営全
般を福祉委
員が行いま
す。

「今日はふれあいや
で行こうで」と、近所
の人の車に乗り合わ
せ、この日は11人が集
まりました。

畑で採れたイチジク
やおかきを持ち寄り、
和やかな雰囲気です。
は進んでいきます。

参加者からは「家
おつても一人やで、大
勢の中で話せて楽し
い」との声が聞かれま
した。



輪になっておしゃべりに花が咲き、終始笑い声が響いていました
(鹿伏公民館)

「平日に集まれたら、高齢
者の安心にもつながるしね」
と福祉委員の志水コトエさん
は話されます。

来月の喫茶の日程を参加者
みんなで話し合い、この日の
喫茶は終了となりました。
今後とも平日の良さを活か
し、長く続いて行けるよう応
援していきます。

(波賀支部 平 有利菜)

ち
くさ

自治会との相談や連携が大切

ふれあい喫茶ボランティア講座

9月15日（火）、エーガイヤ
ちくさデイセンターにおいて、
「ふれあい喫茶ボランティア講
座（2回目）」を開催しました。
当日は、ふれあい喫茶のボ
ランティアなど22人が参加し、
デイセンターを公民館に見立て
て、モデルふれあい喫茶を行
いました。

これは、一回目として見学し

た、一宮町の須行名ふ
れあい喫茶を参考にし
たもので、会場準備や
お茶のサービス等役割
分担しながら参加者全
員で進めていきました。

その後、「ふれあい
喫茶は、何のためにす
るのか」「運営で気にな
ること」など、お茶を
飲みながら気軽に意見
交換を行いました。

参加者からは、「集
まって、顔を合わす機
会を作ることがとにかく
大切」「自治会との相



「今日は、話し合いの場が持てて良かったわ。」
(エーガイヤちくさ デイセンター)

談や連携が大切やね」など、前
向きな意見が聞かれました。
このように、意見交換や情
報提供が行える場を今後も開催
しながら、みなさんの地域で行
われる「ふれあい喫茶」に、だ
れもが気軽に参加し、楽しめる
よう、一緒に考え支援してい
きます。

(千種支部 山本めぐみ)

1.17 KOBEに灯りを!

～ 阪神淡路大震災1.17のつどい～

阪神淡路大震災で亡くなられた方々への慰霊と鎮魂、そして震災から生まれた「きずな・支え合う心」を語り継いでいくため、来年1月17日に震災21年の「阪神淡路大震災1.17のつどい」が開催されます。

宍粟市からも竹筒やろうソクをお届けしますので、みなさまのご協力をお願いします。



三宮東遊園地で追悼

竹筒づくり ボランティア募集

竹筒として使用する孟宗竹の伐り出し・加工、そしてメッセージを書き込み神戸へ届けます。
みなさん竹筒づくりにご協力ください。



昨年は500本の竹筒を作成し神戸へ届けました

竹筒とろうソクの提供をお願いします

ろうソク 不用なろうソクをご提供ください。
色や模様がついたもの、どのような形のものでもかまいません。

竹筒 長さ40cm～60cm、直径10cm
上部は約45度にカットします。

日 時：11月18日(水)午前9時～正午
場 所：一宮保健福祉センター集合
持ち物：竹を切る道具をご持参ください
協 力：宍粟市ボランティア連絡会
ぶるーべりい会

お問合せ：本部72-8787

お問合せ：各支部

これからも元気で ボランティアを続けましょう 宍粟市ボランティアのつどい



宍粟市ボランティア連絡会では、市内で活躍するボランティア同士の交流を目的に『宍粟市ボランティアのつどい』を開催します。

みなさんぜひご参加ください。

講 師：栗木 剛氏(mottoひょうご事務局長)

講 演：「楽しく活動が続けるために」

日 時：11月4日(水)午後1時～3時

会 場：メイプル福祉センター(波賀町安賀)

対 象：宍粟市ボランティア連絡会会員

宍粟市ボランティアセンター登録者

▼お問合せ：各支部

ボランティア通信 発行しています!



「ふれあいの輪」

「ボランティアの風」



(山崎)



(一宮)

山崎ボランティア連絡会と一宮ボランティア連絡協議会では、ボランティア通信を発行しています。

役員が中心となり、行事予定やグループ紹介などを掲載し、会員さんにお配りしています。

各支部窓口にも置いてありますので、ぜひご覧下さい。